

八〇〇年の伝承・平家琵琶の無常の美

【演目】《祇園精舎》《入道逝去（清盛の最期）》

【演奏】菊央 雄司 【お話】越智 亮成、てん・仁智

2025年5月17日(土)

17:30-19:00 (開場17:00 定員 80名)

三寶山地福寺 (〒781-3334 土佐町西石原1115)

入場料 2,000円 (小学生以下無料)

TEL:0887-83-0257 (三寶山地福寺)

※16時より20時頃まで境内にていしはらキッチンがご利用いただけます

■関連企画1

講演会 『平家物語』をめぐって

第一部(歴史篇) 講師:野本 亮

第二部(平家琵琶篇) 講師:菊央 雄司、聞き手:てん・仁智

2025年5月17日(土) 13:30-15:00 (開場 13:00)

あじさいホール (〒781-3401 土佐町土居 206 保健福祉センター内)

TEL:080-6389-8015 (田岡)

入場無料・申込不要

■関連企画2

平家語り体験教室 《祇園精舎》を一緒に語ろう!

講師:菊央 雄司

対象:小・中学生、高校生、大人若干名(親子での参加歓迎!)

2025年5月18日(日) 10:30-12:00 (開場 10:00)

三寶山地福寺 (〒781-3334 土佐町西石原 1115)

入場無料・申込不要

※ご昼食に「やまさとの市(直販所)」をご利用いただけます。

平家物語
を聴こう!



(公財) 高知新聞厚生文化事業団 助成事業

主催: 高知で平家物語を聴こう! 実行委員会

共催: いしはらの里協議会〔地福寺公演・体験教室〕

知の循環型生涯学習研究会〔講演会〕

後援: 土佐町・土佐町教育委員会 本山町・本山町教育委員会

一般社団法人 土佐れいほく観光協議会

高知大学大学院総合人間自然科学研究科スポーツ・芸術文化共創専攻

高知新聞社 NHK高知放送局 RKC高知放送 KUTVテレビ高知

KSSさんさんテレビ KCB高知ケーブルテレビ エフエム高知

協力: 平家語り研究会 三寶山地福寺 株式会社いしはらキッチン

【お申込み・お問合せ】

QRコードよりお申込みください。

TEL: 070-6566-5495 (中山)

E-mail: tosonoheikebiwa@gmail.com



【アクセス】

〈車〉あじさいホールへは、高知自動車道大豊ICから国道439号経由でいの町(吾北)方面へ20分。三寶山地福寺へは、さらに14分。

三寶山地福寺駐車場: 石原コミュニティセンターグラウンド

あじさいホール駐車場: 土佐町役場前、旧森小学校グラウンド

『平家物語』は、文学作品か音楽作品か？

『平家物語』は日本を代表する文学作品であるとされています。しかし、実は、鎌倉時代から盲目の琵琶法師が琵琶の伴奏で語る（歌う）「平家（平家琵琶、平曲）」という名称の音楽種目として親しまれてきました。つまり、本来、『平家物語』は音楽作品と言っても過言ではないのです。

今、なぜ「平家」なのか？

しかし、この「平家」の伝統は、明治維新でほぼ絶え、伝承者は今や名古屋の今井勉氏唯一人となってしまいました。この今井氏から指導を受けた菊央雄司と日本音楽研究家の薦田治子、そして2名の若手地歌・箏曲演奏家たちは、二〇一五年より「平家語り研究会」を発足し、名古屋伝承曲のほか江戸時代の譜本の解説も行い、平家伝承の保存・継承・失われた音曲の復元を続けてきました。「祇園精舎の鐘の聲・・・」は、本当はどのような節回しなのでしょう？

八〇〇年前当時の「平家物語」の「音」と「語り」が現代に蘇ります。

『平家物語』と高知、過去から未来へ

公演に先立ち、関連企画1では、県史編さん室・野本亮氏により土佐町や高知県内の平家伝説について、菊央氏により今回の演目や平家琵琶についてご講演いただきます。また、翌日の関連企画2では、こどもたちにかの有名な《祇園精舎》の平家語りを体験してもらいます。教科書とは違う新たな発見があることでしょう。平家落人伝説の色濃く残る、この山深い土地、高知・土佐町において、『平家物語』が地域の歴史再発見の機会となると共に、「平家」がそこに根差すべき文化として次世代へと継承されることを望みます。また、この物語の悲劇との対峙が人類平和の祈りへと昇華し、メッセージが世界へと羽ばたいていくことを願ってやみません。

Profile

きくおう ゆうじ 菊央 雄司

(平家琵琶・地歌三絃・古生田流箏曲・上方系胡弓 演奏家)

2002年から文化庁の新進芸術家国内研修員として平家最後の伝承者・今井勉師から平家の指導を受ける。人間国宝菊原初子の後継者、地歌演奏家菊原光治の演奏に感銘を受け12歳で師に入門、後に「菊央」の称号を授かる。1999年より上方胡弓を菊津木昭に師事。以後、地歌三味線などの伝統を継承しながらも現代邦楽や新しいスタイルでの演奏にも目を向け、平成22年オペラ「遣唐使」に箏奏者として出演の他、のこぎり演奏家「サキタハナメ」や和太鼓兄弟ユニット「は・や・と」とも共演する。また国内にもとどまらず韓国、ヨーロッパ各国などでも精力的に公演を行っている。NHK大阪放送局制作朝の連続ドラマ「おちよん」にて三味線指導を務める。地歌舞地方(じかた)として舞台やTVに出演する他、邦楽アウトリーチを展開し、より多くの人に邦楽に触れてもらえるよう活動している。2023年より東京にて毎年「サイトル」を開催。長谷校校記念全国邦楽コンクール最優秀賞、大阪舞台芸術新人賞、大阪文化祭奨励賞、第21回日本伝統文化振興財団賞受賞。令和5年度芸術選奨新人賞受賞。

(公)当道音楽会会員、琴友会会員

文楽研修生講師、平家語り研究会会員、沖縄県芸術関連協議会会員



じんち

てん・仁智〔小島 典子〕(箏奏者・日本音楽研究)

東京藝術大学音楽学部卒業。自作自演のソロ演奏活動続ける一方で、日本各地の民間伝統芸能の調査・研究を通して貴重な伝承が消えゆく状況を痛感。その後江戸時代の譜本に準拠した八橋流箏曲の研究と演奏を行い、平家語り研究会にて主に菊央雄司師より平家の語りや琵琶演奏の指導を受けている。現在、「絶滅危惧種コンサート制作委員会」を立ち上げ、八橋流箏曲・平家・普化宗尺八を軸とした演奏会を企画している。2000年に高知大学にて講師を務める。

のもと あきら

野本 亮 (高知県史編さん職員・元高知県立歴史民俗資料館学芸課長)

昭和38年東京都三鷹市生まれ。國學院大学文学部歴史学科卒。高知県中学校社会科教員採用後、高知県立歴史民俗資料館で学芸員として勤務。晩年は土佐町中学校に勤務して退職。現在、高知県文化生活部歴史文化財課県史編さん室に勤務するかたわら、土佐町民具資料館において資料整理ボランティアとしても活動している。

おち りょうせい

越智 亮成 (三宝山地福寺住職)

代々寺族の家系に生まれ種智院大学仏教学部卒業後、2008年より三宝山地福寺副住職を務めながら四国霊場第34番札所種間寺にて12年勤務。2020年より地元土佐町に戻り三宝山地福寺住職に就任。